

新潟大学 人を対象とする研究等倫理審査委員会 オプトアウト書式

①研究課題名	三次元術前計画・術後評価ソフト『ZedHip®』における CR アライメント機能の髌骨（ドライボーン）を使用した精度検定
②対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	
【対象】 1980年から2020年の間に新潟大学法医学教室で司法解剖に用いられた遺体の髌骨（ドライボーン）のうち、同一個体で骨盤骨，大腿骨，脛骨が残存しているもの（男女問わず2例）。 【研究期間】 新潟大学医学部倫理審査委員会承認後から2026年3月31日まで 【過去の研究課題名】なし	
③概要	
これまで我々は人工股関節全置換術や骨盤骨切り術を行う際により正確な手術を行うため、三次元術前計画ソフト ZedHip®を用いて術前計画を立てそれに基づき手術を行ってきました。また、以前我々は髌骨（ドライボーン）を使用し、本ソフトの計測精度が非常に高いことを報告しました（Nozaki et al. Medicina 2023）。本ソフトでは 2024 年から単純 X 線（CR）画像と CT 画像から作られた 3D モデルをマッチングさせ、立位など、CT 撮影が困難な際の骨盤傾斜を計測する『CR アライメント機能』が加えられました。本研究の目的は CT から再構築された三次元骨盤モデルと CR 画像をマッチングさせた際の骨盤傾斜の精度を調査することです。	
④申請番号	2024-0208
⑤研究の目的・意義	これまで我々は人工股関節全置換術や骨盤骨切り術を行う際により正確な手術を行うため、三次元術前計画ソフト ZedHip®を用いて術前計画を立てそれに基づき手術を行ってきました。また、以前我々は髌骨（ドライボーン）を使用し、本ソフトの計測精度が非常に高いことを報告しました（Nozaki et al. Medicina 2023）。本ソフトでは 2024 年から単純 X 線（CR）画像と CT 画像から作られた 3D モデルをマッチングさせ、立位など、CT 撮影が困難な際の骨盤傾斜を計測する『CR アライメント機能』が加えられました。本研究の目的は CT から再構築された三次元骨盤モデルと CR 画像をマッチングさせた際の骨盤傾斜の精度を調査することです。また、得られた結果により、坐位など、三次元での骨盤傾斜が計測困難なものに対しても応用できる可能性があるため、本研究の社会的意義は大きいと思われます。
⑥研究期間	新潟大学医学部倫理審査委員会承認後から2026年3月31日まで
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される	本研究対象はすでに死亡し、司法解剖を受けられた方の骨を用いるため、対象者に不利益が生じることはないと考えられます。

場合はその方法を含む。)	利用は当院のみで行います。使用するデータは個人が特定されないように匿名化を行い、研究に使用します。研究の成果は、学会や専門誌などの発表に使用される場合がありますが、名前など個人が特定できるような情報が公表されることはありません。
⑧利用または提供する情報の項目	2010 年から 2020 年の間に新潟大学法医学教室で司法解剖に用いられた方 (2 例)
⑨利用の範囲	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座および整形外科
⑩試料・情報の管理について責任を有する者	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座 今井 教雄
⑪お問い合わせ先	新潟大学大学院医歯学総合研究科 健康寿命延伸・運動器疾患医学講座 今井 教雄 025-227-2272 imainorio2001@med.niigata-u.ac.jp